2022年度　サビエル高等学校　学校評価書

【教育方針】
～愛と奉仕に生きる～

本校はキリスト教精神に基づいて、真・善・美を追求し、
知・情・意の調和のとれた円満な人格の育成を目指しています。
学力向上　愛と奉仕　国際交流　を通して21世紀を創る社会人を育てます。

【3つの教育目標】

Ⅰ　祈る（心を育てる）：祈りを通して、自分自身や他者をありのままに受け入れよう。

Ⅱ　学ぶ（知性を磨く）：神から与えられた能力をともに伸ばそう。

Ⅲ　行動する（他者のために、他者とともに生きる）：地球社会の一員として、できることから始めよう。

【スクールモットー】

For Others, With Others

～他者のために、他者とともに～

理事長

学校評価総括

●それぞれの担当部署において、目標達成のため様々な方策に取り組んだ。保護者アンケートの「知人や友人に、サビエル高校への入学を勧めたいと思う。」、「この学校に入学させて良かったと思う。)」という質問について、昨年に比べて、若干ではあるがポイントが下がっていることについて真摯に受け止めなければならない。生徒、保護者の満足度が、学校についての総括的な指標であり、各項目ごとに見直しを図り、サビエル高校に対する満足度を上げていかなければならない。教科、学年、分掌等それぞれで、2022年度を振り返り、以下の反省点、気づきなどを基に、改善を図りたい。
○サビエル高校の存在意義を見つめ直し、それらを踏まえ、生徒への指導を継続していく。ルーブリックアンケートについて、今年度も全学年でアンケートを実施した。この評価を取り入れたことで、建学の理念をもとにした教育がどの程度達成できているかを検証する一助となっている。
○授業については、新課程から始まった観点別評価によって見直すべきポイントが明らかになりやすくなっていると感じている。
○学校の危機管理運営について、これまで通り運営していく。5月からは、新型コロナウイルス感染症への対応が変わるので、それにも対応していかなければならない。危機管理、その対応について、新しい情報を得ながら、常に検討、改善していく必要がある。
○教職員間での効果的な協力体制の構築が引き続き課題となっている。一昨年前から、密を避けるため職員室を二か所に分けているが、このことで少なからずコミュニケーションが減ったように感じる教職員がいるのも事実である。また、現状では教員が多忙であり、以前のような余裕がなくなってきたという意見もある。学校関係者からも、仕事の見直しについてご意見をいただいている。働き方改革の点からも改善策を出していかなければならない。教員の負担軽減のため、校務支援ソフトの導入を予定している。
○学校から保護者への連絡・情報提供についてはメール配信、Classiなどの利用により、大変効果があったと感じる。
○学校行事については、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止、規模を縮小しての実施などとなった。しかし、昨年度に比べると、例えばサビエル祭では、感染対策をした上で、模擬店を実施、保護者に来校してもらうこともできた。修学旅行についても、昨年度同様、時期はずらしたが、行き先は予定通りに実施することができた。生徒満足度アンケートの「学校行事に満足している。」では、昨年とほぼ同じ87％の生徒が満足・どちらかと言えば満足していると回答した。中学時代を含めて新型コロナの影響を大きく受けた生徒たちである。「新しい生活様式」を見据えながら、行事などは可能な限り、実施していきたいという気持ちで取り組んだ。また、今後は、これまで以上に生徒が自主的になれるような行事運営を推奨していきたい。
○韓国聖母女子高校との交流（6月受入、12月訪韓）や、本校企画の海外研修（2週間のアメリカ・サンディエゴ）については、今年度も中止となった。新型コロナの状況にもよるが、次年度以降に復活できるよう準備をしている。留学生受入については、今年度も、アジアからの留学生7名を迎え入れることができた。これらの事業はサビエル高校ならではのものである。今後も、いろいろな場面で、AFS等の留学支援団体と力を合わせ取り組んでいきたい。
○広報活動については、広報部を中心に中学校、塾への訪問、オープンスクール、学校説明会などの企画運営に力を入れた。特にオープンスクールについては、新型コロナ対策も考慮し、少人数の複数回実施とした。2022年度は、特にインスタグラムの更新頻度を増やし広報活動に取り組んだ。理事会からの支援で始まったラジオ放送「サビエルラヂオ倶楽部」も順調である。来年度についても、複数のメディアを利用した広報活動を行っていきたい。そして最も大事なことは何を広報するのかという部分である。学校関係者からいただいた意見を踏まえ形にしていきたい。

●学習指導に関する部分については学校の核となる部分である。ICT機器の活用については、悪天候時や新型コロナ対応のためのリモート授業もスムーズに実施できるようになり軌道に乗りつつあると感じていたが、学校関係者からは、「ICT機器を利用して付加価値のある授業が行われるかが重要」とのご意見をいただいた。現状に満足することなく、探究心を持って取り組まなければならない。これらの経験を活かし、次年度以降も対応していきたい。
○授業に関する満足度アンケートの回答について、「そう思う」の項目を上げたいと考えている。各教科、授業の見直しなどを行い、授業改善をしているが、まだまだ足りない部分がある。常に生徒に軸足を置いた改善をしていきたい。また、今年度は、授業改善のひとつとして昨年度まで実施していた単元テストの見直しを行った。必要に応じて小テストは行うが、中間テストを復活させる形とした。このことは、今年度の進学実績向上の一助として表れたと感じている。
○生徒アンケートの「授業に満足している」の項目について、保護者満足度アンケートの結果は生徒満足度アンケートの結果に比べて満足度が低い。授業は学校生活の中の大半を占める部分である。少しでも「どちらかといえばそう思う」ではなく、「そう思う」を増やしていけるよう見直しを図っていきたい。

●進路指導に関する部分について、保護者、生徒アンケートともにおおむね良好な評価となっている。これらの結果が、卒業後の進路実績にも活かせるよう努力していきたい。今年度の進路実績については国公立大学18名（合格者20名）、私立大学40名、短期大学3名、専門学校14名、就職1名、予備校、その他5名となった。国公立大学について言えば、約25％の合格率である。さらに、国公立大学進学を目指す特別進学コースだけで見ると約73％の合格率となった。また、昨今は新型コロナの影響もあってか、関東方面への進学者が少なかったが、今年はお茶の水女子大、東京都立大など、関東方面への進学者も増加した。
○進路指導に際して、積極的にICT機器が利用できてきていると感じているが、利用方法などについては常に見直しを図っていきたい。
○進路行事（3月に大学講師等を招き、出前授業をしていただく）を、2年生対象として実施した。さらに新しい試みとして、1年生対象に大学訪問（山口東京理科大、九州大、、北九州市立大、西南学院大）を行った。どちらの行事も、生徒にとってはとても有意義な企画となった。
○山口東京理科大の指定校推薦枠をフル活用できるよう、早期から生徒への情報提供に力を入れていく。

●生徒指導に関する部分について、教員の生徒への関わり方については小規模校ならではの近い距離感があり、それがサビエル高校の良さの一つとなっている。生徒対応について、今年度はシスターにも関わっていただき多くの助言を得ることができた。
部活動については様々な問題、制約もある中、運動部、文化部ともに地道に活動している。（剣道部…中国大会出場、美術・写真部…山口県総合文化祭美術・工芸部門出品、合唱部…NHK山口県合唱コンクール出場　など）部活動の活性化のために教職員の意見を活かせるよう整備をしていきたい。
その他、改善すべき項目は以下の通りである。
○学校関係者評価の意見として、「あいさつ」についての助言をいただいている。「あいさつ」については、学校内でもよく話題となる部分であり、意識の向上を図っていきたい。
○生徒アンケートの結果からも、生徒指導面での教員間の指導の差を多少なりとも感じている生徒がいることがわかる。今後も機会あるごとに教職員間の共通理解の徹底に努めていかなければならない。
○教員の生徒への関わりについてはおおむね良好と言えるが、担任はその関わりが大きく、特に最近では、一人では対処が難しい場面も多くなった。学年団を中心とし、生徒支援担当、管理職が協力し対応していかなければならない。年々、生徒を取り巻く諸問題も多様化し、その関わりには特に気を配らなくてはならない。今後についても、情報共有と対応についてしっかりと協力体制をとっていきたい。
○部活動に充てる時間、指導者の確保など、難しい面が多い事柄である。可能な改善部分については早急に検討していきたい。

2022年度　サビエル高等学校　教職員による学校評価

評価基準：　4…そう思う　3…どちらかといえばそう思う　2…どちらかといえばそうは思わない　1…そう思わない

意見・要望欄について
○…高評価
△…低評価、今後の課題

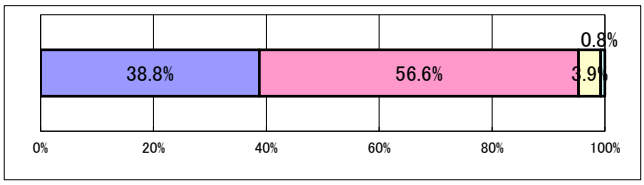
自己評価					学校関係者評価	
領域		評価の観点	評価	気づき等	意見・要望等	評価
主に学校運営全般に関する事柄	1	学校は、建学の理念「愛と奉仕に生きる」のもと、教育を行っている。	3.74	今年度についても、やはり新型コロナウイルスの影響を大きく受けた1年であった。本校においても、日々の感染対策、様々な行事の運営方法についての対応を迫られたが、その時々において最適な対応をとることができたと考える。 1、2について …年度ごとに若干の変化はあるが、おおよそ同様の結果となった。生徒、保護者のアンケート結果についても良好な結果となっている。今後も宗教的な行事、各種活動、ボランティアや国際交流活動など、さらに工夫を凝らしていきたい。 3について …特にメール、クラッシー、HPを利用した情報共有がスムーズに行われていると感じる。生徒、保護者とも、この項目について良好な結果となっている。この情報共有はこれまで同様、危機管理面だけでなく、保護者への情報提供、いろいろな連携にも活用している。 4について …2020年の5月から、新型コロナ感染予防対策として密を避けるため、職員室を二部屋に分けている。現在もその状況が続いている。ひとつの職員室で全員が顔を合わせることが少なくなり、些細なコミュニケーションが少なくなっていることは確かである。 新型コロナについてもそうだが、本校に限らず教職員の仕事量は増えているのが現状である。そのため、教職員に以前ほど余裕がなくなってきていると感じる。教職員からは次のような意見もでている。 ・各教員に余裕がないかもしれませんが、分掌を横断しての仕事がもう少しできると良いと思います。同時に分掌を超えた俯瞰的な視点を持てると良いとも思います。 ・教員一人ひとりが、大きな仕事を抱えており、仕事をお願いできる状況ではない。また、仕事を引き受けることもできない。授業に関連していない仕事に費やす時間が多過ぎて教材研究がほとんどできない。これでいいのかと不安になる時がある。 5について …メールやクラッシー、HPを利用した密な連絡を心がけている。保護者アンケートの結果も良好である。来年度は新型コロナ以前の環境が戻ってくると予想される。連携という点から、学校行事等でのサビエル会との連携を強めていきたい。 6，7，8について …いろいろな制約はあったものの、実施に向けてよく検討して実施できたのではないかと感じる。生徒満足度アンケートにおける行事の項目についても86.8%が「そう思う」、「どちらかというとそう思う」を選んでいる。 6について次のような意見もあった。 ・生徒の満足度が得られるよう、もう少し生徒が主体となれるように工夫したい。 ・来年度はコロナ前に近い行事運営ができそうなので、これまで以上に盛り上げていきたい。 7について、生徒、保護者ともに評価はとても高い。ボランティア活動についても、新型コロナの影響はあるものの、少しずつ活動できる機会が増えていった。 8について …今年度最後となる「アジアの架け橋」プロジェクトによる留学生の受け入れが無事できたことは大きな成果だったと思う。AFSの関係者の方々には本当に助けていただいた。2年生修学旅行についても、時期の変更はあったものの、予定通り九州方面（長崎）の修学旅行を実施することができた。 9について …HPの充実、インスタグラムでの広報活動に加え、理事会の方からの援助を受け、ラジオ放送を開始するなど外部への露出度を上げている。しかし、教職員自己評価は、昨年に比べ下がっており、広報活動についての見直しも必要だと思われる。	○変わりゆく時代の中で、多感な生徒に最も大切にしなくてはいけない、変わってはいけない他者を思いやる精神を十分に学んだと親の目から思えた。 ○「学校運営全般に関する事柄」に対しての評価は概ね高く、安定していると感じる。 △このことについて、少し意地悪に分析してみると、「変化が無いことを良しとしている」と捉えられる。外から見てのことであるが、「保守」を良しとし、「変革」を望まない、と見受けられる。もっと言えば、「変革」を望まないのではなく、「変革」について考えてもみたこともなく、変わらなくてはいけないと思っいるとは到底見受けられない。勤勉さと貪欲さが感じられない。いや、教職員の方々は、皆さん真面目で勤勉である。しかし、新しいことへの挑戦、新しい事への学びをされているだろうか？例えば、「英語のサビエル」というキャッチフレーズをここ何年も聞いているが、英検2級の合格率はどうだろうか？学園を挙げてのイメージ戦略にしては、合格率や合格人数をお伺いしても分析されておらず、すぐには説明資料が出てこない。現状を把握し分析しなければ、次の一手は出てこない。結果、「英語のサビエル」はスローガン倒れに終わり、外部にはそのイメージはない。また、後にも述べるが、ICTの活用はどうだろうか？ 現状分析をしっかり行い「成長戦略」を練る必要がある。 △教員の忙しさが生徒にも伝わっていると思う。生徒に細かなサポートをするのがサビエルの良い点だと思うので仕事の見直しや無駄を省くなどした方が良いのではないか。 △9について、サビエルの推しは何？サビエルといったらこれ！というものが外の人達に伝わっているのかと思う。サビエル自身が外に出していきたい面と、人達が思うサビエル像が一致しているのかが問題ではないのか。ブランディングに力を入れるべき。	4.00
	2	学校は、3つの教育目標〔①祈る（心を育てる）　②学ぶ（知性を磨く）　③行動する（他者とともに、他者のために生きる）〕に基づいて、教育を行っている。	3.70			3.75
	3	学校は、生徒の安全確保を最優先し、危機管理を根底とした運営を行っている。	3.50			3.75
	4	教職員間（学年間・教科間・その他）の協力体制ができている。	3.22			2.75
	5	学校は保護者への情報提供や保護者への連携を十分に行っている。	3.48			3.25
	6	各種学校行事について、充実して行われている。	3.43			3.00
	7	学校は、ボランティア活動を通して他者のために生きる人材となるよう指導している。	3.74			4.00
	8	学校は、国際交流活動を通して、グローバルな人材となるよう指導している。	3.57			4.00
	9	HPなどにより、広報活動が十分に行われている。	3.43			3.00
主に学習指導に関する事柄	10	私は、「分かりやすい・深く考える」授業を目指して、教材研究に取り組んでいる。	3.30	10～13の項目については、学習指導要領への対応のみならず、今後も様々なICT機器の活用やシステムが変化していくことが予想されるので、校内での教材研究や校外での各種研修への参加を推進していきたい。今年度から、昨年度まで行っていた単元テストについても見直しを図り、それぞれの教科の特性に沿った評価を行うようにした。1年生については、新課程となり、観点別評価の導入など変化の多い年度となったが、教務部を中心として、数年前から計画的に準備をしてきたこともあり、無事、1年目を終えることができた。ただ、観点別評価については、これまでの評価方法に比べ非常に時間と手間のかかるものである。今後についても、観点別評価の良い点を活かしつつ、効率的に評価ができるようなしくみを考える必要があると感じる。 生徒アンケートの「今の授業に満足している」、保護者アンケートの「子供から全体的に授業に満足していると聞いている」の項目について昨年と比較すると、全体的に大きな変化はないが、生徒の「そう思う」が少し減っているのに対して、保護者の「そう思う」は増えている点について、考察していく必要がある。 教職員から次のような意見もあった。 …時間をしっかりととり、もう少し、教材や指導法の研究、他の先生の授業見学等に取り組みたい。 授業に関連していない業務に費やす時間が多く、教材研究に使える時間が十分にとれていないのではないかと不安になる時がある。 教材研究や指導法の研究、個人面談まで十分に時間を費やせていない。 学校の業務改善、働き方改革についても踏み込んだ対応が必要となっている。一つの取組として、来年度、教務支援に関するシステムを導入を予定している。出欠管理や帳票作成など事務的な部分を自動化することで教職員の負担を軽減できればと考えている。 11について …コロナ禍につき、今年度も制限の多い一年だった。特に音楽、家庭科などの授業では、感染予防としての制約も多かった。 12について …教職員のICT器機の活用能力は年々高くなってきている。必要であれば、Teamsを用いたリモート授業をすぐに準備できるようになった。またZoomを用いた留学生との交流、全校朝礼なども、日常的に使えるようになっている。	△ICT機器の活用が、未だ不十分と感じる。TeamsやZoomが使えることはもはや当たり前で、それを活用してどのような付加価値のある授業を行うかが重要である。「反転学習」や「アクティブラーニング」の活用もICTを使えば可能性が広がる。「アクティブラーニング」については、コロナ禍で対応が出来ていなかったと伺ったが、Zoomのグルーピング機能を使用すれば、容易に少人数グループでのディスカッションが可能になり、その目的は遂行できたはずである。持てるものを活用し、最大の結果を出すという気持ちがなければ、他校との差別化など図れるはずもなく、教員みずからが成長し変革を起こそうという気概がなければ生徒の成長もそこまでであり、サビエル学園の成長もそこまでである。先生方には「明日のサビエル学園は、一回一回の授業にかかっている！」という気持ちで、授業に臨んで欲しい。	3.25
	11	私は、授業の進め方を、ALなどを取り入れながら、常に工夫・改善しながら適切に行っている。	3.25			3.00
	12	私は、ICT機器の特性を活かした授業を行っている。	3.16			2.75
	13	私（各教科）は生徒や保護者が納得のいく評価基準を設定している。	3.50			3.25
主に進路指導に関する事柄	14	私は、各学年・教科の目標達成に向けて指導法を改善したり、研究したりしている。	3.25	おおむね良好な結果である。今年度の卒業生の進学実績については、国公立大学合格者が20名（特別進学コースから19名　※70パーセン以上の合格率　進学コースから1名）の合格者を出した。最近は新型コロナの影響などもあったのか、関東方面の受験者が減っていたが、今年は、お茶の水女子大をはじめ、東京都立大、横浜市立大、立教大、法政大など関東方面の大学の合格者が増えた。また、県内大学についても、山口大、周南公立大、山口県立大、山口東京理科大などに合格している。 16について …主にClassiを利用しての情報発信をおこなっている。保護者アンケートの「学校は、保護者との連携を密にした進路指導を行っている。」について、「そう思う」の回答が、他の進路に関する質問よりも割合が低いのが気になる。以前よりも、保護者への情報提供は増えているはずであるが、タイミングや内容などについてもよりよりものを目指していきたい。 教職員から次のような意見も出ている。 …早期からの「指定校推薦」についての情報提供があると良い。特に山口東京理科大については、工学部の指定校推薦枠を毎年満たしていないので、早い段階から、生徒にアドバイスをしていくべきである。 17について …担任が変わったタイミング、あるいは担任以外の教員でも、必要な時にスムースにかかわりが持てるよう、一元管理された記録があるとよいと感じる。進路指導のみに関わらず、すべての情報がリンクしているとなおよいと思う。	○進路指導については、ここ2～3年、かなり成果が出ていると感じている。これからも、良好な結果を維持していただきたい。 △ただ、自己評価にもあるように、「指定校推薦」の枠が十分に活かせていない状況が続いており、サビエル学園としての戦略を明確にし、広報活動の段階で、「学園の戦略」と「生徒の進学への思い」に「ミスマッチ」のないようにされたい。	3.50
	15	LHR等を利用して計画的な進路指導がなされている。	3.40			3.75
	16	進路指導部からの情報の提供が適切になされている。	3.75			3.50
	17	進路に関する相談や個人指導が適切になされている。	3.40			3.75
主に生徒指導に関する事柄	18	全教職員が同じ方針で適切な生徒指導を行っている。	3.10	学校全体としては生徒指導部の嫌がらせ行為についてのアンケート等で早期発見、防止に努めている。問題行動については、0ではないが基本的には落ち着いた状態を維持している。 部活動については、今回のアンケート結果からも生徒、保護者の評価は低めとなった。部活動時間の確保、指導方法の改善など、今後も学校全体で取り組んでいかなければならない。 生徒動静については、昨年度に引き続き、転学者が多かった。対応が難しいケースが本当に多くなったが、学年、管理職、その他関係教員での連携を強めて対応していきたい。 教職員からは、このような意見があった。 …情報共有 21、22について ・生徒との関わりについて、担任をはじめ色々な先生方が関わられていると感じる。昨年度の学校評価の中で、シスターやスクールカウンセラーともっと気軽に相談できる機会があればよいという意見があった。スクールカウンセラーによる支援については、しっかりと活用されてきていると感じる。シスターと生徒の関わりについても、何度か機会を設けていただいた。 ・スクールカウンセラーの存在は大きいと感じる。管理職、担任ともしっかりと連携がとれている。 23について 今年度、部活動の活性化について、定期的に会議を設け、改善策を模索した。来年度以降、できるところから改善していく。 会議では、主なものとして次のようなものがあった。 ・しっかり活動できている部活とそうでない部活の差が大きい。 ・7限授業や特講などがある日など、時間的に十分な練習が行えない場合がある。 ・水曜7限については、部活動優先の時間としてはどうか。 ・指導者の確保。外部指導員の活用など検討してはどうか。 ・活動が難しい部の統廃合	△全体を通して一番評価が低かった項目が、(23)であった。2022年度まではコロナ禍ということもあり、先生方も不完全燃焼感が残る活動となったのではないかと推察される。自己分析の意見として、「7限目」について提言があるが、学校として最適な方針を決定して欲しい。 ○生徒の相談に対して、生徒からは「どちらかといえばそう思う」まで入れると100%満足のいく対応を取られていると感じている結果となっており、非常に良いと思う。 △生徒の自己評価によると、「基本的な生活マナー・交通ルールが身についてきている。」もA、Bで100%を占めているが、外部の方への挨拶、廊下でのマナー（玄関、事務室の前では無駄話をしない等）はまだまだ改善の余地があると思う。 △部活動については、大学のサークルのように何人か集まれば結成できるよう（教員の確保等条件はあるかもしれないが）にすれば部活が少ないからサビエルにはちょっと、とはならないのではと思うが、新しく物品の購入等も考えると難しいと思う。	3.25
	19	私は、校則を熟知しており、問題行動が発生した場合などの対処についても理解している。	3.10			3.50
	20	私は、授業中のみならず、学校生活においても生徒には適切な声かけを行っている。	3.15			4.00
	21	学校は生徒の心身の悩みに応える体制や指導ができている。	3.41			4.00
	22	学校は、いじめの早期発見、防止など、いじめに対する対応を十分に行っている。	3.33			3.50
	23	私は部活動の指導を十分にしている。	2.94			2.75

2022年度　生徒満足度アンケート（第２回）　集計結果　　その１

実施日：2023年3月6日
対象：生徒（全学年）

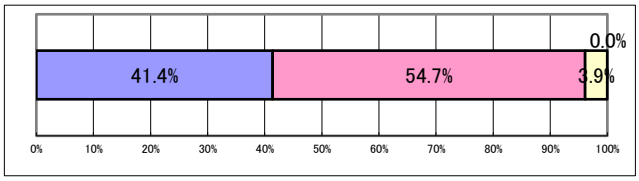
評価基準〔A：そう思う　B：どちらかといえばそう思う　C：どちらかといえばそうは思わない　D：そう思わない〕

1 私は、建学の理念「愛と奉仕に生きる」を常に念頭に置いて、学校生活を送っている。



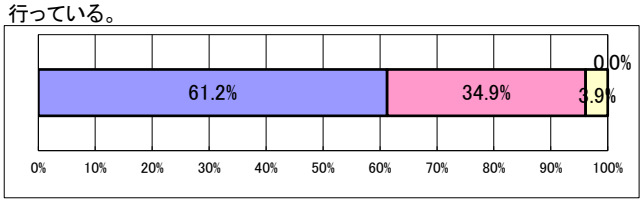
A	B	C	D	
50	73	5	1	（人）

2 私は3つの教育目標〔①祈る（心を育てる）　②学ぶ（知性を磨く）　③行動する（他者とともに、他者のために生きる）〕を常に念頭に置いて、学校生活を送っている。



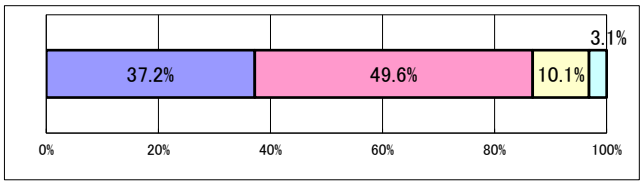
A	B	C	D	
53	70	5	0	（人）

3 学校は、生徒の安全確保を最優先し、危機管理を根底とした運営を行っている。



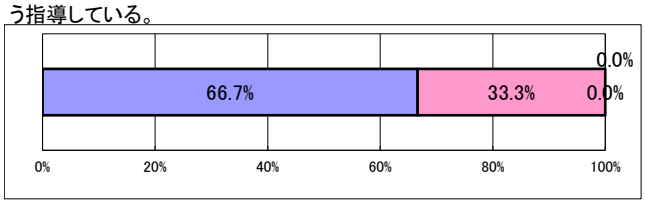
A	B	C	D	
79	45	5	0	（人）

4 学校行事に満足している。



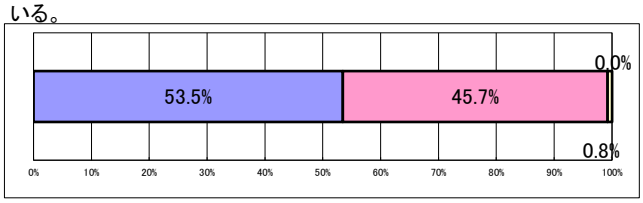
A	B	C	D	
48	64	13	4	（人）

5 学校は、ボランティア活動を通して、他者のために生きる人材となるよう指導している。



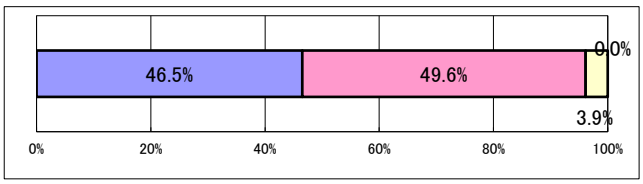
A	B	C	D	
86	43	0	0	（人）

6 学校は、国際交流活動を通して、グローバルな人材となるよう指導している。



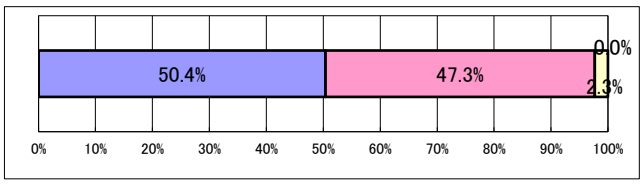
A	B	C	D	
69	59	1	0	（人）

7 先生方は興味・関心が持てる授業を行っている。



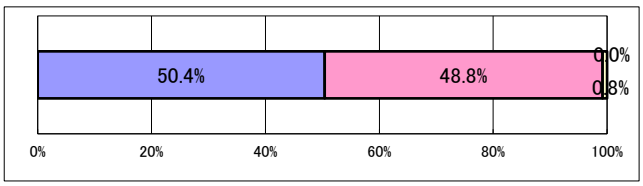
A	B	C	D	
60	64	5	0	（人）

8 先生方は熱心に解りやすい、深く考える授業を行っている。



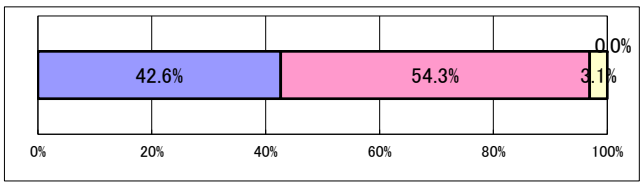
A	B	C	D	
65	61	3	0	（人）

9 私は意欲的に授業を受けている。



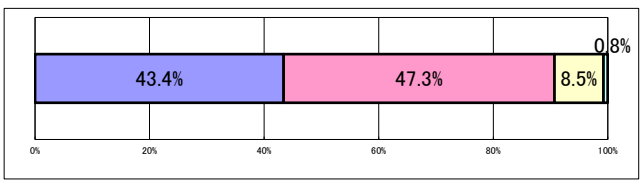
A	B	C	D	
65	63	1	0	（人）

10 私は、今の授業に満足している。



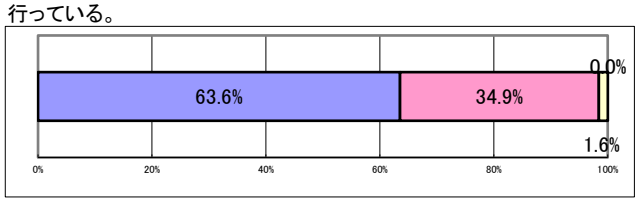
A	B	C	D	
55	70	4	0	（人）

11 私は、家庭学習の習慣が身についてきた。



A	B	C	D	
56	61	11	1	（人）

12 学校は、個別懇談等、生徒の適性や希望等を活かした進路指導を行っている。



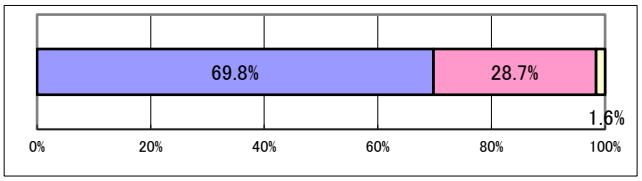
A	B	C	D	
82	45	2	0	（人）

2022年度　生徒満足度アンケート（第２回）　集計結果　　その２

実施日：2023年3月6日
対象：生徒（全学年）

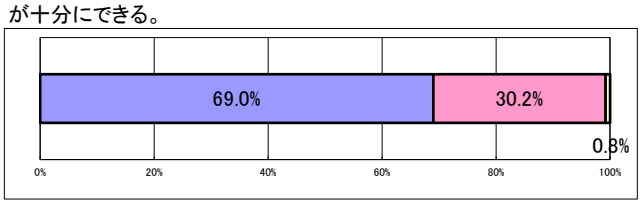
評価基準〔A：そう思う　B：どちらかといえばそう思う　C：どちらかといえばそうは思わない　D：そう思わない〕

13 学校は、早期から進路に対する目標の意識づけを行っている。



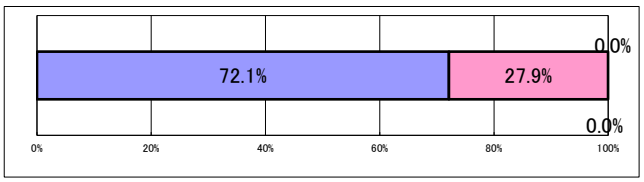
A	B	C	D	
90	37	2	0	（人）

14 進路について考える際、学校内で必要な資料の閲覧、情報検索などが十分にできる。



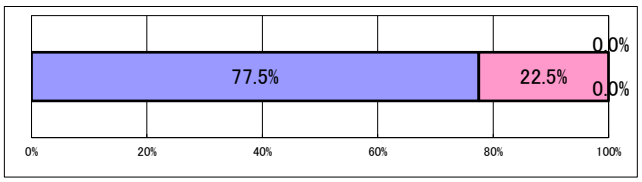
A	B	C	D	
89	39	1	0	（人）

15 私は、基本的な生活マナー・交通ルールが身についてきている。



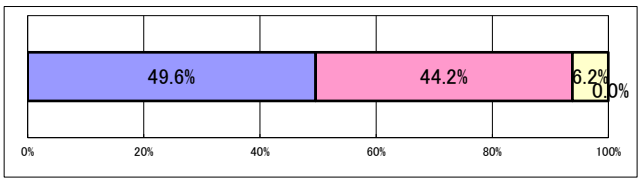
A	B	C	D	
93	36	0	0	（人）

16 私は、髪型、服装などサビエル生らしい身なりをしている。



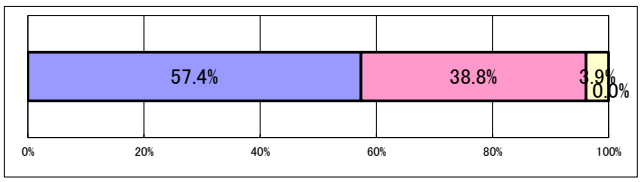
A	B	C	D	
100	29	0	0	（人）

17 どの先生も同じ方針で生徒指導を行っている。



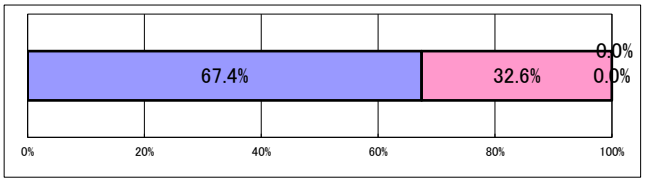
A	B	C	D	
64	57	8	0	（人）

18 先生方は生徒の間違った行動に対して適切に指導している。



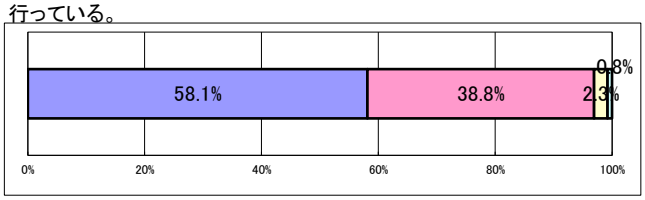
A	B	C	D	
74	50	5	0	（人）

19 先生方は生徒からの相談に積極的・親身に応じている。



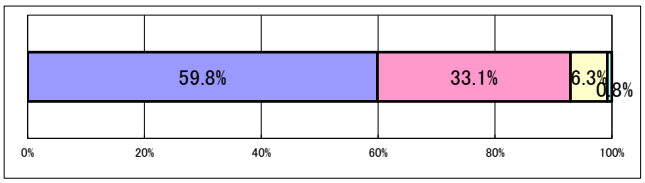
A	B	C	D	
87	42	0	0	（人）

20 学校は、いじめの早期発見、防止など、いじめに対する対応を十分に行っている。



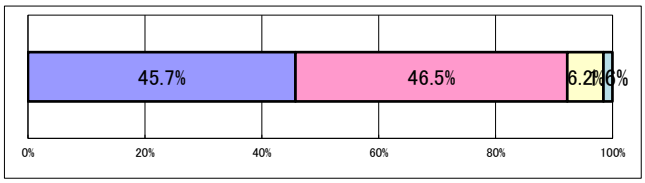
A	B	C	D	
75	50	3	1	（人）

21 私が所属している部活動は、指導が十分に行われている。



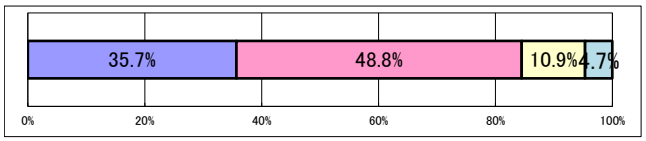
A	B	C	D	
76	42	8	1	（人）

22 この学校に入学して良かったと思う。



A	B	C	D	
59	60	8	2	（人）

23 知人や友人に、サビエル高校への入学を勧める。



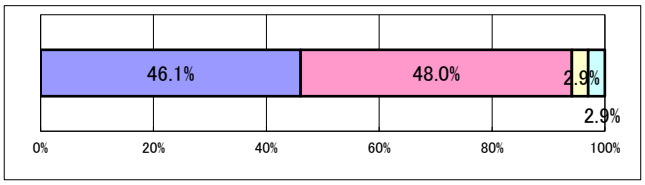
A	B	C	D	
46	63	14	6	（人）

2022年度　保護者満足度アンケート（第2回）　集計結果　　その1

実施日：2023年3月6日～3月31日
対象：全学年保護者

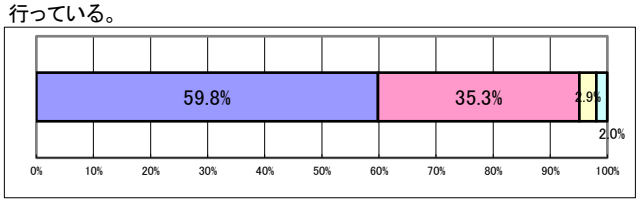
評価基準〔A：そう思う　B：どちらかといえばそう思う　C：どちらかといえばそうは思わない　D：そう思わない〕

1 全校集会やホームページ等を通して建学の理念や教育方針等が生徒や保護者に伝わるようにしている。



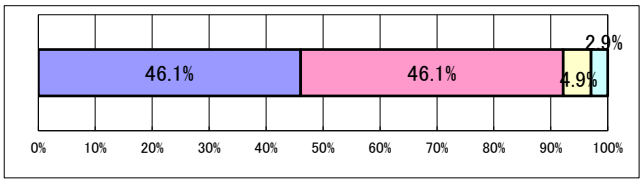
A	B	C	D	
47	49	3	3	（人）

2 学校は、生徒の安全確保を最優先し、危機管理を根底とした運営を行っている。



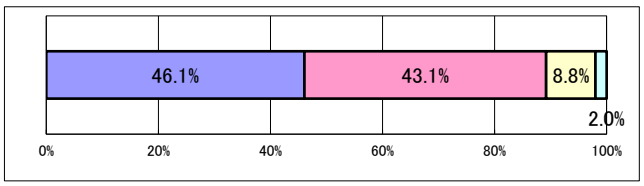
A	B	C	D	
61	36	3	2	（人）

3 学校は、保護者の話や声を聞く機会を設けている。



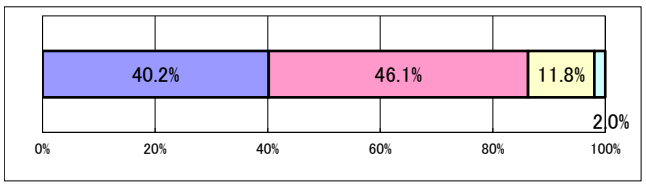
A	B	C	D	
47	47	5	3	（人）

4 学校は、生徒の話や声を聞く機会を設けている。



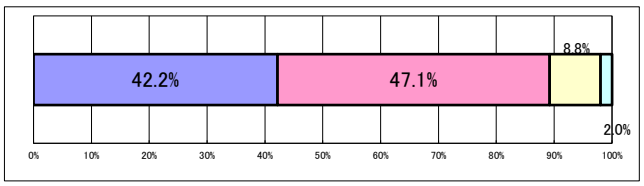
A	B	C	D	
47	44	9	2	（人）

5 学校は、保護者の要望を把握し、協力して活動している。



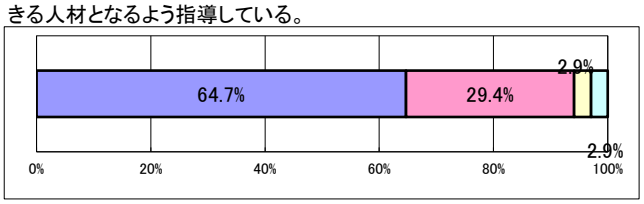
A	B	C	D	
41	47	12	2	（人）

6 学校と保護者との連携がうまく取れている。



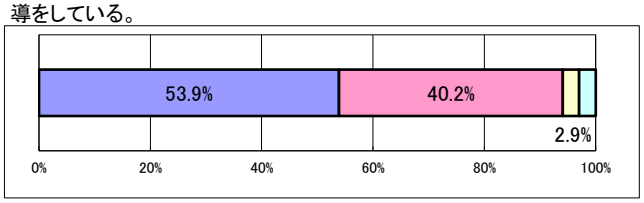
A	B	C	D	
43	48	9	2	（人）

7 学校は、ボランティア活動や国際交流活動を通して、他者のために生きる人材となるよう指導している。



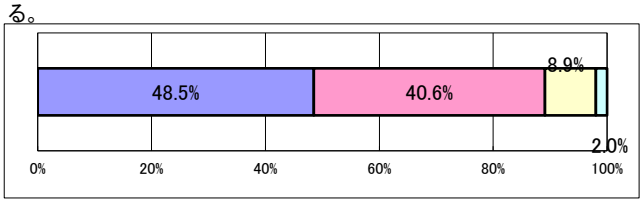
A	B	C	D	
66	30	3	3	（人）

8 学校は総合的な学習の時間や学校行事等で、様々な体験ができる指導をしている。



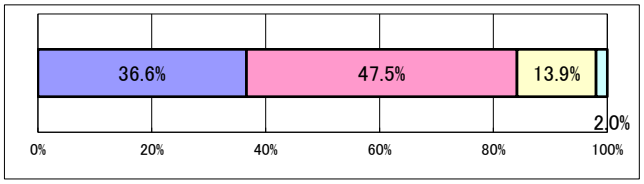
A	B	C	D	
55	41	3	3	（人）

9 学校の雰囲気がよく、子どもはいきいきと楽しく学校生活を送っている。



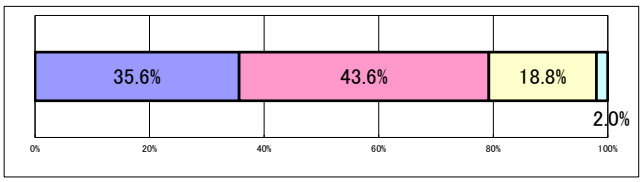
A	B	C	D	
49	41	9	2	（人）

10 学校は、生徒の興味・関心を高める授業を展開している。



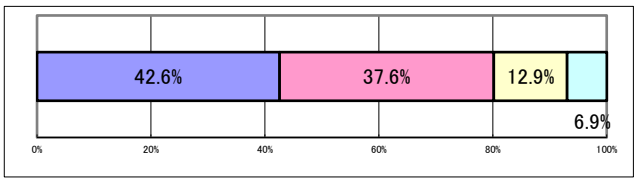
A	B	C	D	
37	48	14	2	（人）

11 子どもから「全体的に授業に満足している」と聞いている。



A	B	C	D	
36	44	19	2	（人）

12 子どもは、家庭学習の習慣が身についている。



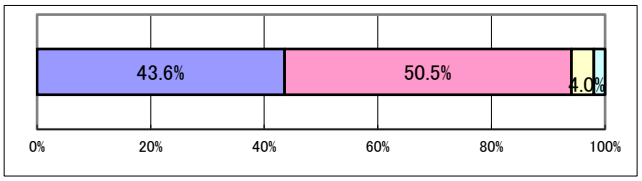
A	B	C	D	
43	38	13	7	（人）

2022年度　保護者満足度アンケート（第2回）　集計結果　　その2

実施日：2023年3月6日～3月31日
対象：全学年保護者

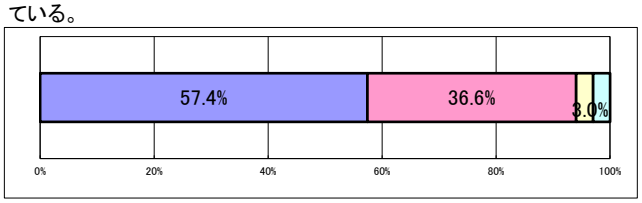
評価基準〔A：そう思う　B：どちらかといえばそう思う　C：どちらかといえばそうは思わない　D：そう思わない〕

13 学校は、生徒の適性や希望等を生かした進路指導を行っている。



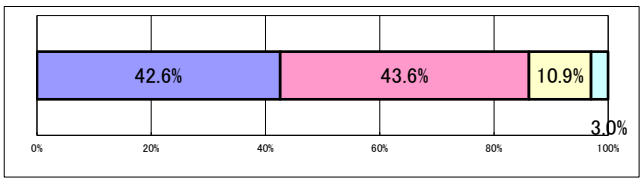
A	B	C	D	
44	51	4	2	（人）

14 学校は、個別懇談等、生徒一人ひとりを大切にした進路指導を行っている。



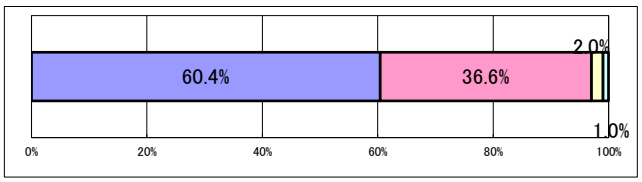
A	B	C	D	
58	37	3	3	（人）

15 学校は、保護者との連携を密にした進路指導を行っている。



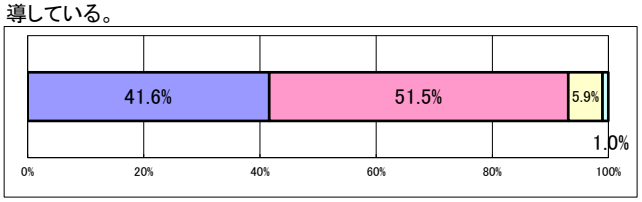
A	B	C	D	
43	44	11	3	（人）

16 学校は、早期から進路に対する目標の意識づけを行っている。



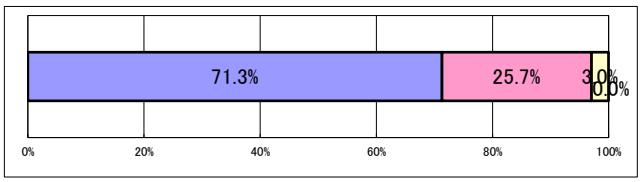
A	B	C	D	
61	37	2	1	（人）

17 学校は、生徒に基本的な生活マナー・交通ルールが身につくように指導している。



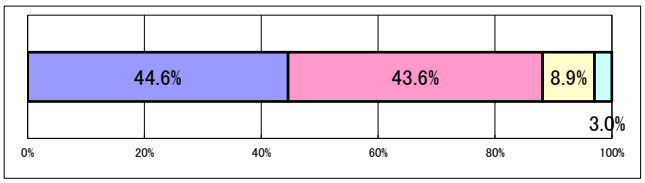
A	B	C	D	
42	52	6	1	（人）

18 子どもは、髪型、服装などサビエル生らしい身なりをしている。



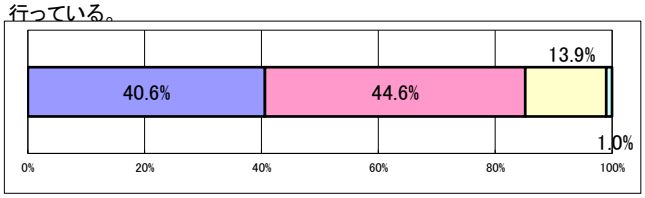
A	B	C	D	
72	26	3	0	（人）

19 学校は、心身の悩みに応える指導を行っている。



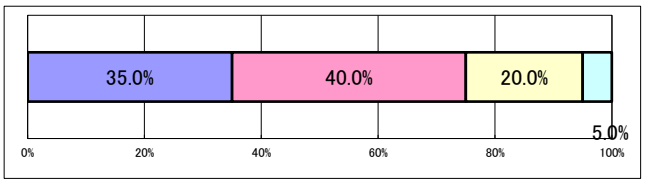
A	B	C	D	
45	44	9	3	（人）

20 学校は、いじめの早期発見、防止など、いじめに対する対応を十分に行っている。



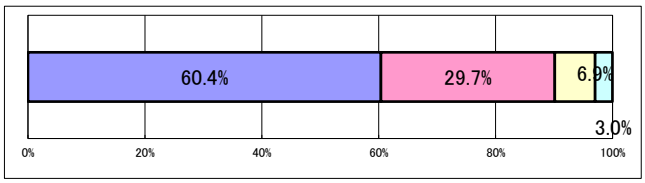
A	B	C	D	
41	45	14	1	（人）

21 部活動の指導は十分に行われている。



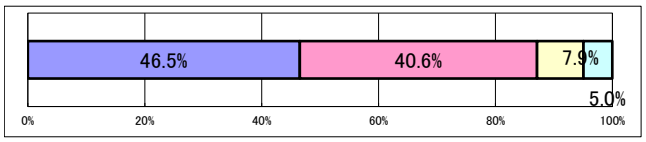
A	B	C	D	
35	40	20	5	（人）

22 サビエル高校に入学させてよかったと思う。



A	B	C	D	
61	30	7	3	（人）

23 知人や友人に、サビエル高校への入学を勧めたいと思う。



A	B	C	D	
47	41	8	5	（人）